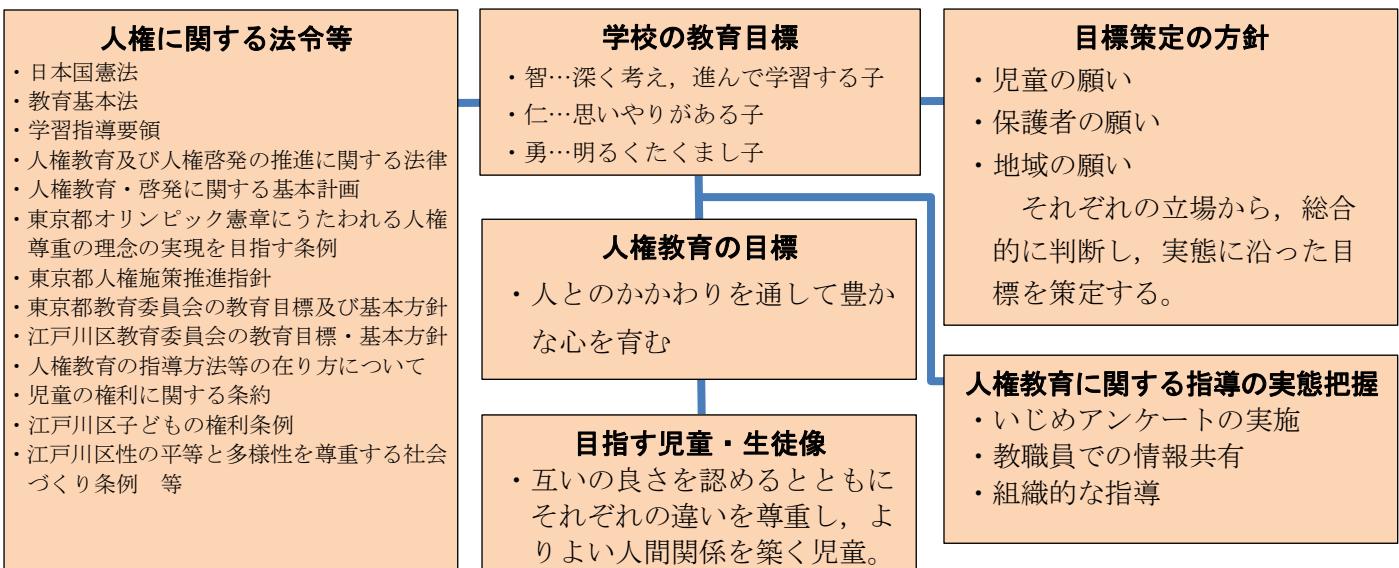


令和7年度 江戸川区立第三葛西小学校 人権教育全体計画



普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組

- ・自分は他者と違って当たり前、他者は自分と違って当たり前という感覚をもち、自身や他者を尊重する意識を育てる。
- ・それぞれの良さを認め合い、ともに生きる社会の構築に対する意識を高めるために、特別支援学級との交流活動を重視する。

学年・学級経営

- ・低学年では、「友達の気持ちを考えて仲良くできる子」をめあてとする。
- ・中学年では、「たくさんの友だちと関わり合い、助け合って、うれしいと思える子」をめあてとする。
- ・高学年では、「お互いのよさを認め、伝えあえる人間関係を育み、お互いを大切にしようとする子」をめあてとする。

日常的な指導

- ・代表委員会を中心に、あいさつ運動を実施する。
- ・全校オリエンテーリング、児童集会などで、きょうだい学級活動を取り入れる。
- ・様々な教科や学校行事で、特別支援学級と交流す

教科等の指導

- ・特別の教科道徳を中心に、様々な教科でより多くの立場の人についての理解を深める。
- ・総合的な学習の時間等で、様々な立場の人々についての理解を図る。

人権教育の年間指導計画作成の方針

- ・特別の教科道徳を中心に、様々な教科を通して、より多くの立場の人々についての理解が深められるよう、教材分析を行うとともに、単元構成を工夫し、教科・領域の横断的な指導計画を練る。
- ・性別、年齢、国籍、職業など、様々な立場の人々について理解が図れるよう、総合的な学習の時間はじめ、各教科・領域だけでなく、そういった人たちと交流する機会を設ける。
- ・特別支援学級との交流を各学年の発達段階に応じて位置付ける。

教職員の研修

- ・人権教育担当、特別支援教育コーディネーターを中心とした、講師に招いたりする研修会を実施する。

校種間の連携

- ・近隣中学校と、児童生徒の交流を行う。また、連続性のある指導ができるよう、教職員間の情報交換を密にする。

家庭・地域との連携

- ・地域への所属意識や、高齢者への畏敬の念をもてるよう、地域行事にすすんで参加する意識を高める。